



三春中学校だより

第 61 号

発行日 平成 31 年 2 月 12 日

発行所 三春町立三春中学校

電話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【これぞ連携・指導の成果！～さまざまな場面で家庭との連携・指導の成果が出ています。～】

《その1》

【認め、励まされ、よさをさらに伸ばすために自ら挑戦し、がんばれる力が育ってきています。】

先日もお知らせした陸上の朝練は、寒さの厳しい日が続く中、今も続けられています。自らの特長（よさ）を理解し、それにとどまらず、さらに自分自身をよりよく成長させていこうと、厳しい寒さの中、練習に励んでいます。



校門であいさつ運動をしながらそんな子どもたちのがんばりを眺めていると、ふっと、「この子たちはどのような経過をたどり、こんな厳しい寒さの中を練習に粘り強く取り組んでいるのだろう。」と考えました。324名中の7名の子どもたちは、走ることを自ら選択し、自らの意志で寒さの中での練習に取り組んでいます。しかし、そこには、ご家庭での励ましがあり、学校でも同様の働きかけがあったことでしょう。また、練習のための早い時間の送迎があり、厳しい寒さの中、校庭でともに練習に立ち合う先生方がいます。

ご家庭と学校が、子どもたちのよりよい成長をめざし、それぞれの持ち場持ち場で、同じ方向性をもって働きかけてきた成果でもあると考えます。競技の勝ち負けも大切にしなければなりません、それ以上に、早朝の寒さの厳しい校庭という場にいること自体によっても、7名の子どもたちはきつとまた一つ、『命の輝き』を心に宿してくれるに違いありません。

《その2》

【感謝の心を常にもち、生かされている自分というものを自覚し、相手にきちんと伝わるようなあいさつができる生徒が育ってきています。】



「いただきます。」は、他の命をいただいて自分が生きていけるということを教えてくれ、「ご馳走さまでした。」は、自分のために駆け回って食べ物を準備してくれたことに対する感謝の心を表していると、『食育』で教えられました。

2月7日（木）は、3年生の放射線学習のまとめとして、3学年全員で、福島県環境創造センター（コミュタン）に行っていました。

学習を終え学校に戻ってきた3年生は、バスに向かって全員であいさつをしていました。運転をしていただいた運転手さんに対する感謝のあいさつをしている姿を見て、『あいさつ』って何なんだろうと考えました。お世話になったからお礼の『あいさつ』をす

る、お世話にならなければ、『あいさつ』をしなくていい、ではありません。『あいさつ』は、相手の存在そのものを認める行為でもあります。『今、ここにいる自分』は、目に見える形、見えない形で必ずつながっています。たいへん抽象的ですが、他の命が今の自分につながっているという考え方もできます。『あいさつ』の広い意味は、『今生きている、生かされている自分というものの自覚』がその土台にあるのかもしれない。

そんなことをご家庭においてお教え、習慣化していただき、学校でも、『あいさつ』の大切さについて繰り返し指導しております。そんなさまざまな『あいさつ』に関する学びや葛藤を経て、今の三春中学校の子どもたちがいます。そんな『あいさつ』の土台にある意味について共通理解し、同じようにご家庭と学校が一つの思いで子どもたちに働きかけてきた成果が、運転手さんにみんなであいさつする3年生の姿にあらわれています。

登校時の朝のあいさつの中にも、子どもたちの『あいさつ』に関するさまざまな葛藤・学びの姿を見て取ることができます。ポケットに突っ込んできた手をぱっと出してあいさつして通る子、ポケットの手は出さなくてはならないなと思いつつ、ポケットから指先まで出して、またもとに戻って通っていく子、ポケットに手を突っ込んだままあいさつして通る子、出してきた手を目の前でポケットに突っ込んで胸を張って通る子など、『生かされている自分』にふさわしい『あいさつ』について今後ともご家庭とともに考えてまいりたいと思います。

《その3》

【**他を気遣い、他に配慮し、自らを動かす・動かさないことのできる生徒が育ってきています。**】

3年生が通勤から帰ってきて、バスの運転手さんにあいさつしている姿を校長室から望遠で写真に撮り、カメラから目を離すと、ジャージに野球帽、手には黄色いかごを抱えた生徒さんが立ち止まっていました。「あっ、ごめんね。」と慌てて謝りました。その生徒さんは、「すみません。いいですか。」と言って前を通り過ぎていきました。その生徒さんは、放課後、部活動の準備に真っ先に来て、部活動の準備を始めようとしているところだったのです。写真の邪魔にならないようにフレームの端っこで待っていてくれた生徒さんでした。

自分のことだけで精一杯で、視野の狭くなりがちな年頃なのに、この生徒さんは、どんな教えを受けて成長してきたのだろうと考えました。

きっと、ご家庭では、自分のことに一生懸命取り組むのと同時に、他への気配りも決して忘れないという環境の中で育ち、それを当たり前のこととして見て、成長してきたのでしょう。そして、部活動の顧問や学級担任からも、チームの一員として、自分のすること、チームとしてなすべきことをわきまえて行動するよう指導され、それを実践し、評価されてきたのだろうと考えました。

自分のことに全力で取り組むこと、他への気配りを常に心がけること、それのできる人は、他からの信頼を集め、リーダーとして活躍できる資質の持ち主であると考えます。「自分もそんな配慮のできる人間でありたいな。」とその生徒さんから教えられました。



《その4》

【**指導の先生がいてもいなくても、友とともに協力し、分担し、清掃に取り組むことのできる生徒が育ってきています。**】



3年生が通勤に校外学習に出かけた日、帰校時間が清掃時間にかかり、校長室・会議室清掃は1年生2名のみでした。いろいろ指示して、能率よく、校長室・会議室清掃をしなければならぬと思っていました。

ところが、整列した1年生2名は、清掃開始のあいさつ後、何も言わなくとも、二人で話し合い、ほうきがけ・水くみ・雑巾

がけの分担を始めました。ほうき係は校長室からほうきがけをはじめ、雑巾係はバケツの水くみに向かい、戻ってきて校長と一緒に校長室の雑巾がけを始めました。校長室が終わるとほうき係は会議室に移動、雑巾係が校長室の雑巾がけを終え会議室にやってくる前に、ほうきがけをしてくれましたので、スムーズに、待ち時間なく雑巾がけにあたることができました。ほうき係は、ほうきがけを終えると、机ふきに転じ、それも終わると、雑巾係がはじめに汲んできたバケツの水を捨てに行ってくれました。校長も含めた3人の連携プレーにより、実にスムーズに清掃ができました。ほとんど会話を交わさず、互いがそれぞれの分担をよく守りつつ、次の行動を予想しながら取り組むことができた1年生をすばらしい子どもたちだなと感心しました。

広い校舎をそれぞれが分担し、自分が使ったところを他の人が分担してくれているという観点で、自分が使ったところでもなくとも分担を意識して、スムーズな清掃活動を見通しをもって行う力は、まさに、集団生活をする上で欠かせない考え方であり、資質でもあります。まさに、自他の責任の自覚をもって取り組まれた活動であります。きっと家庭でも、手伝いを当たり前にし、集中力とメリハリをもって学習・生活にあたり、家族から感謝されるという生活を当たり前で送ってきたのでしょう。

ちなみに、通級教室の清掃も同様に、担当の先生が不在でした。三度ほど励ましに行きましたが、担当の1年生の生徒2人で、きちんと清掃をしていました。人が見えていても、いなくても、自らが分担した活動に全力で取り組むことのできる生徒を校長としてとてもうれしく思います。清掃に全力で取り組めず、無駄話をしたり適当に済ませてすぐに整列してしまったりする生徒は、その役割と責任、見通しをもった行動ということがこれからの学習課題となっている生徒が多いようです。

今回は、1日のうちに、4つの特筆すべき活動に出くわし、とても幸せな時間を過ごすことができたので、ぜひ、そんな、学校での子どもたちのがんばりをお知らせいたしたく、学校だよりに取り上げ、ご紹介させていただきました。冒頭のタイトル【**これぞ連携・指導の成果！～さまざまな場面で家庭との連携・指導の成果が出ています。～**】でもお示ししたとおり、ご家庭でお教えいただいたことと学校での指導が同じ方向を向いていることが、子どもたちの安定した日々の生活につながり、その結果、子どもたちの今以上のさらなる心身の成長につながってまいります。ご家庭と学校とが密に連携を図り、同じように働きかけていくことこそが、今でもすばらしい子どもたちの、ますますの成長につながっていくものと確信いたします。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。